



令和 6年 8月 22 日
秋 田 大 学

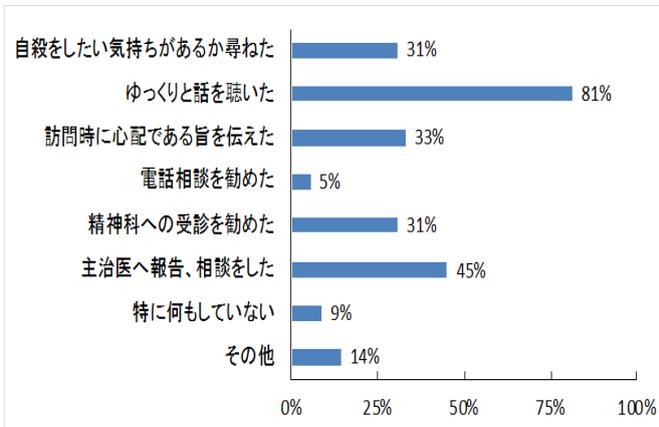
秋田大学が訪問看護ステーションに勤務するスタッフを対象にしたゲートキーパー養成研修に関わる実態調査の結果をまとめました

秋田大学（学長：南谷 佳弘）は、2024年 6 月に秋田県看護協会の後援を受け、訪問看護ステーションに勤務するスタッフを対象にした調査を行いました。これは自殺リスクに気づき、適切に対応できるゲートキーパーの役割を担うために必要なスキル等の実態を明らかにし、地域で生活する患者に向けた自殺対策を行うための基礎資料とするために、秋田県の補助金を活用して、秋田大学自殺予防総合研究センターが実施しました。この度、調査結果をまとめましたので、公表いたします。

【調査概要】

調査対象	: 秋田県の訪問看護ステーションに勤務する489名（有効回答 174名）
主な調査内容	: 自殺リスクが高い人への対応経験、ゲートキーパーに必要なスキル
調査方法	: 郵送法による無記名自記式質問紙調査
調査時期	: 2024年 6月 1日～ 30 日

【調査結果のポイント】



（報告書から抜粋）P.5 図5 自殺の危険性が高い人への対応

秋田県の訪問看護ステーションに勤務するスタッフの約半数が自殺リスクの高い人に遭遇しており、約4割が患者でした。自殺リスクの評価は既往歴から判断する可能性が高いことが明らかになりました。対応方法については約8割が傾聴すると回答しました。一方、自殺念慮（自殺したいという気持ち）の確認や精神科への受診を勧めていた人は3割程度でした。

「自殺リスクが高い人が用いることができるリソースを知っている」という項目については自信がない人が多いため、ゲートキーパー研修を実施し、自殺リスクが高い人に対応するスキルや自信の向上が課題です。

調査・分析の結果は、秋田県と共有し、今後の効果的な支援策を検討するために活用します。

秋田大学自殺予防総合研究センターでは、秋田県の自殺者数減少を目指して、今後も各種調査研究・取組の実施を計画しています。

【調査に関する問合せ先】

秋田大学 自殺予防総合研究センター 特任助教 宮本 翔平

電話：018-801-7041

研究者情報：https://akitauninfo.akita-u.ac.jp/html/100001280_ja.html